



先生が愛した カメラたち

～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～

2021.3.22(月)～2021.9.30(木)

場所／中部大学民族資料博物館 シルクロード室他

主催／中部大学民族資料博物館 協力／中部大学 平左エ門カメラ同好会

関連シンポジウム

日時／2021年6月1日(火)14:00より16:00まで 場所／中部大学リサーチセンター 2階 大会議室

1 基調講演 >>

「カメラの発達と写真文化」

講師：上原 一郎 氏(写研春日井写真クラブ会長)

司会：荒屋鋪 透(中部大学民族資料博物館長・人文学部教授)

2 座談会 >>

「平左エ門先生の建築教育への思い～復原研究参加の思い出」

伊藤平左エ門研究室ゆかりの中部大学卒業生

司会：内藤 和彦(中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会)

※新型コロナウイルス感染症の拡大を注視しながら開催方法を検討いたします。最新情報はHPにてご確認ください。



- | | | | |
|----------------------------|------------------|--------------------|-----------------|
| 1 Rolleiflex Standard(ドイツ) | 2 Leica M4(ドイツ) | 3 Leica A(I) (ドイツ) | 4 平左エ門自作カメラ(日本) |
| 5 Linhof Technika 23(ドイツ) | 6 Contaflex(ドイツ) | 7 MINOX B(ドイツ) | |

PROFILE



伊藤平左エ門(1922-2004)

尾張藩の御用宮大工の家系に生まれ、昭和21年に東京帝国大学を卒業後、同大学院にて日本伝統建築の研究に着手。昭和55年に第12代伊藤平左エ門を襲名。中部大学には昭和41年に助教授、昭和48年に教授として就任し、建築学科にて建築史・意匠分野を担当。登呂遺跡の復原をはじめ、出雲大社拝殿、水戸弘道館、高松栗林公園内「掬月亭」など多数の文化財・古建築の復原・修復などを手がけ、その数は250余件に及ぶ。木割書『匠明』の解説研究他の業績により「日本建築学会賞」を受賞している。

伊藤平左エ門家の系譜と中部大学における研究

生家である伊藤家は、代々平左エ門を襲名する堂宮大工の家系で、初代から10代までは尾張藩御大工を務めたとされる。初代伊藤平左エ門 宗知は「美濃明細紀」より織田信秀の家臣であったともいわれ、慶長年間に清須から名古屋に移り、名古屋城築城に従事したと伝えられる。伊藤家は幕末から明治にかけ、尾張地域だけではなく、業績の場を全国に広めた。それまでの尾張藩作事方の伝統技術をさらに高め、明治の技術革新を取り入れて、作品は洋風建築にも及んだ。建築技法から、構造法にも精通し、木曾檜などの木材集積地である名古屋を背景に、近代の名門宮大工としての業績を確立していく。第12代伊藤平左エ門は建築史・意匠分野の研究のなかで利休園復原研究の茶室「工法庵」他、「洞雲亭」(古建築の移築修復研究)、「欄柯軒」を、建築教育として教職員、卒業研究生らとともに中部大学に建てる。



利休園復原建築研究「工法庵」(中部大学)

中部大学
平左エ門カメラ同好会

伊藤平左エ門先生が愛用されていたカメラ機器120点余りは、2006年、大学へ遺贈された。貴重なオールドカメラの数々は、その後有志により発足した同好会において、部品の手入れ等、継続したメンテナンス作業を含む活動を通じ守られてきたことで、大学コレクションとしての今日の紹介へつながった。

また、同好会は保存整理の段階に応じて、これまで企画展示を2008年より8回にわたり行い学内外に配信してきた。本展では、その活動の足跡についても振り返りながら、カメラ機器を通じて平左エ門先生の「モノ作り」への精神に触れた人びとの交流の一端に触れる。

中部大学民族資料博物館

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(附属三浦記念図書館2階)
TEL 0568-51-1111(代表) 0568-51-9193(直通) FAX 0568-51-9194
ホームページ <https://www3.chubu.ac.jp/museum/> E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp

ACCESS

交通のご案内/
JR中央本線「神領」駅下車、
名鉄バス「中部大学前」
(約10分)下車すぐ

